

保健体育科学習指導案

指導教官

実習生

- 1、日時 平成30年 6月7日(木) 第3校時
- 2、場所 2年 2組 HR教室
- 3、学年・組 2年 2組 男子 17名 女子 22名
- 4、単元名 家族計画と人工妊娠中絶(生涯を通じる健康)

5、指導にあたって

(1) 単元について

本単元では、子どもを産み育てることは大きな喜びであることを理解させる。予定しない妊娠や出産は親子にとって大きな負担になる可能性があることについて理解させ、家族計画の重要性について考えさせる。妊娠を望まない時に私たちがとるべき行動や望まない妊娠をしたときにどのように対処するかを理解させる。妊娠を望まない時に避妊を行うことで女性の健康だけでなく、子どもの健康を守ることもつながることを理解させる。

(2) 生徒の実態

クラスの雰囲気としては落ち着いており、取り組むべきことに対してはしっかりと取り組むことができる。しかしながら保健の授業には体育ほど興味を持って取り組む生徒が少なく興味関心を引き付ける指導の方法が必要であると考え。子どもを産み育てることの喜びや妊娠を望まない時に取り組むべきこと、望まない妊娠をした場合どうするかなどについて一方的に伝えるのではなく生徒自身に考えさせながら対話方式で授業を進めることで生徒の興味・関心を引くことができるのではないかと。

6、指導計画 全 11時間中 5時間目

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
0分	思春期と健康	性意識と性行動の選択	結婚生活と健康	妊娠出産と健康	家族計画と人工妊娠中絶	加齢と健康	高齢者のための社会的取り組み	保健制度とその活用	医療制度とその活用	医薬品と健康	様々な保健活動や対策
60分											

7、評価基準

(1) 関心・意欲・態度

家族計画と人工妊娠中絶について、妊娠を望まないときに、私たちがとるべき行動について積極的に考え授業に参加しようとしている。

(2) 思考・判断

妊娠を望まない場合というのはどのような場合があるか、また望まない妊娠をした場合どのような対応の仕方があるかについて考えることができる。

(3) 知識・理解

女性の健康だけでなく、子どもの健康を守ることができるなどの家族計画の意義について正しく理解することができる。わが国で最も多く利用されている避妊の方法や避妊は正しく行わないと効果がないということについて理解することができる。

8、本時の目標

家族計画とはどのようなものであるか、また家族計画の意義とは何かについて考え、理解することができる。避妊の方法についてはいくつかの方法があることを理解し、適切な避妊を行わないと効果がないことについて理解することができる。人工妊娠中絶について身体的・精神的に大きな負担があることについて理解することができる。

9、本時の展開

	学習活動	指導及び指導上の留意点	評価の観点
導入 10分	あいさつ、出欠確認 ワークシートを受け取る	授業開始のあいさつを行い、欠席者・忘れ物がないかの確認を行う。	態度
		発問：皆さんは将来結婚したいと思いますか？ またそう考えた理由はなぜですか？ ワークシートを配布する。	思考・判断
展開 35分	家族計画の意義について理解する	ワークシート①に生徒自身の家族計画について記入させる。 発問：自分が生まれたとき、両親はどのように思っただろうか。 両親に望まれて産まれてきたということを理解する。	思考・判断 態度 思考・判断
	避妊の意義について理解する	ワークシート②に生徒の意見を記入させる。 教科書やワークシートを参考に避妊は女性の健康だけでなく子供の健康を守ることもつながることを理解させる。 ロッカーに置き去りにされてしまった赤ちゃんや赤ちゃんポストなどの話をし、望まない妊娠をした結果どうなるのかについて考えさせる。	知識・理解
	避妊の方法や種類について理解する	ワークシートの空欄に適した言葉を入れ、避妊の方法に対して理解する。 タイミング法や膈外射精などは間違った避妊法であるということについて理解させる。 発問：避妊をする際、最重視することはなにか？ パートナー間での話し合いが必要なことを理解させる。	思考・判断 思考・判断

展開 35分	人工妊娠中絶について理解する。	人工妊娠中絶とはどのような手術なのかの説明を行い、子の命を奪う行為であると理解させる。 性交を行えば新たな命が生まれる可能性があることを理解させ、妊娠を望まない場合は避妊を行う必要があり、避妊を行わず、妊娠した場合人工妊娠中絶を行う可能性があることを理解させる。 人工妊娠中絶とは命を奪う行為であるということを理解させる。 また、女性にとって身体的、精神的に大きな負担があることについて理解させる。	知識・理解 関心・意欲・態度 思考・判断 知識・理解
	母体保護法について理解する なぜ、人工妊娠中絶は妊娠 22 週目の胎児まで行えるのかを考える	特別な理由があれば、限られた時期までは人工妊娠中絶を行うことが母体保護法によって認められていることについて理解する。 妊娠 22 週目の胎児はどのような状態にあるのかということを理解させ、なぜ人工妊娠中絶は 22 週目の胎児までなら行えるのかについて考えさせる。	知識・理解 思考・判断
まとめ 5分	本時のまとめ あいさつ	授業の振り返りをおこなう。 性交すれば妊娠する可能性があることをもう一度伝え、避妊の重要性について理解させる。 授業終了のあいさつをおこなう。	態度

準備：教科書、保健ノート、ワークシート

2年()組 氏名()

p.72.73 家族計画と人工妊娠中絶

①自分の家族計画を作ってみよう!

子どもを産む時期 →
 子どもの人数 →
 出産の間隔 → 1人目 歳 2人目 歳 3人目 歳

②妊娠を望まない時期、理由にはどのようなものが挙げられるだろうか?

()

避妊法	解説	失敗率 (妊娠率%)
低用量ピル (経口避妊薬)	方法: (①) の入った錠剤を毎日服用することで、排卵を抑制する。精子の子宮内侵入を防ぎ子宮内膜を着床しにくい状態にする メリット: 女性自身で行え、正しく使用すれば失敗が非常に少ない デメリット: 持病などによっては服用できない場合がある。(②) がある	0.3~8%
コンドーム	方法: 性器に装着し、精子が膈内へ侵入するのを防ぐ方法 メリット: 安価であり、手軽に入手できる。(③) にも効果的 デメリット: 装着ミスや破損、外れるなどによる避妊の失敗が多い	2~15%
ペッサリー	方法: 子宮の入り口にかぶせ、精子の侵入を防ぐ方法 メリット: 女性自身で行える デメリット: 失敗が多いため、現在ではほとんど使われていない	6~16%
リズム法 (オギノ式、基礎体温式)	方法: 妊娠しやすい時期を予測し、その時期の性交を避ける方法 メリット: 薬や特別な器具の必要がなく経済的 デメリット: あくまで予測なので、確実ではない	1~25%
殺精子剤	方法: 精子を殺す働きのある薬を、性交前に膈内へ入れる方法 メリット: 女性自身で行うことができる デメリット: 膈内に入れるタイミングが難しく、失敗することも多い。	18~29%